

# 令和3年度 第5回市民まちづくり会議 次第

日 時 令和3年9月29日(水)  
午後6時30分～午後8時00分  
場 所 市役所本館2階 全員協議会室

## 1 開 会

## 2 委員発表

- ① 意見発表（五十嵐委員）ふりかえり
- ② 意見発表（大谷委員）ふりかえり
- ③ 意見発表（倉寫委員）

## 3 会議事項

- (1) 今後の運営方法について
  - ・意見集約の結果について
  - ・グループ分けについて
  - ・外部講師参加について
- (2) グループ打合せ・発表

## 4 その他

## 5 閉会

## 市民まちづくり会議名簿

	氏名	ふりがな
委員長	松澤 秀和	まつざわ ひでかず
副委員長	坂口 永一	さかぐち えいいち
副委員長	花岡 裕子	はなおか ゆうこ
	有賀 剛	あるが つよし
	五十嵐 豊峰	いがらし とよみね
	大谷 真宙	おおたに まちゅう
	荻原 猛	おぎわら たけし
	小夫 真	おぶ まこと
	倉蔦 智彦	くらしま ともひこ
	篠原 博文	しのはら ひろふみ
	島田 直政	しまだ なおまさ
	鈴木 絵美	すずき えみ
	竹内 直弘	たけうち なおひろ
	田中 隆	たなか たかし
	柘植 香織	つげ かおり
	中澤 亥三	なかざわ いぞう
	水間 源	みずま はじめ
	村山 弘子	むらやま ひろこ
	柳橋 悠香	やなぎばし ゆか

【2021年8月新テーマ】

# 誰ひとり取り残さない街づくり ～居場所づくりから～

サブテーマ

「地域共生社会とひきこもり支援」

東御市市民まちづくり会議 2021年9月29日発表振りかえり資料  
五十嵐 豊峰

# 誰ひとり取り残さない街づくり

ひきこもり支援⇒相談者に寄り添った「居場所づくり」が第一歩！

## 1. 常設の居場所

多世代が集まれる、いつでも行ける、いてもいい居場所づくり

## 2. スタッフの育成

相談相手に信頼される人財育成やネットワーク作りのハブ機能

## 3. 情報提供

相談者に必要&知りたい情報（生活・医療・福祉・就労・年金etc）がある

## 4. 研修会や講演会

支援者、家族、市民のスキルアップ（話相手を増やす）

## 5. ワンストップ相談の拠り所

手帳があっても無くても利用できて、  
当事者支援&家族支援の対応として、たらい回しにしないこと！

東御(とうみ)モデルのセイフティーネットを創ろう



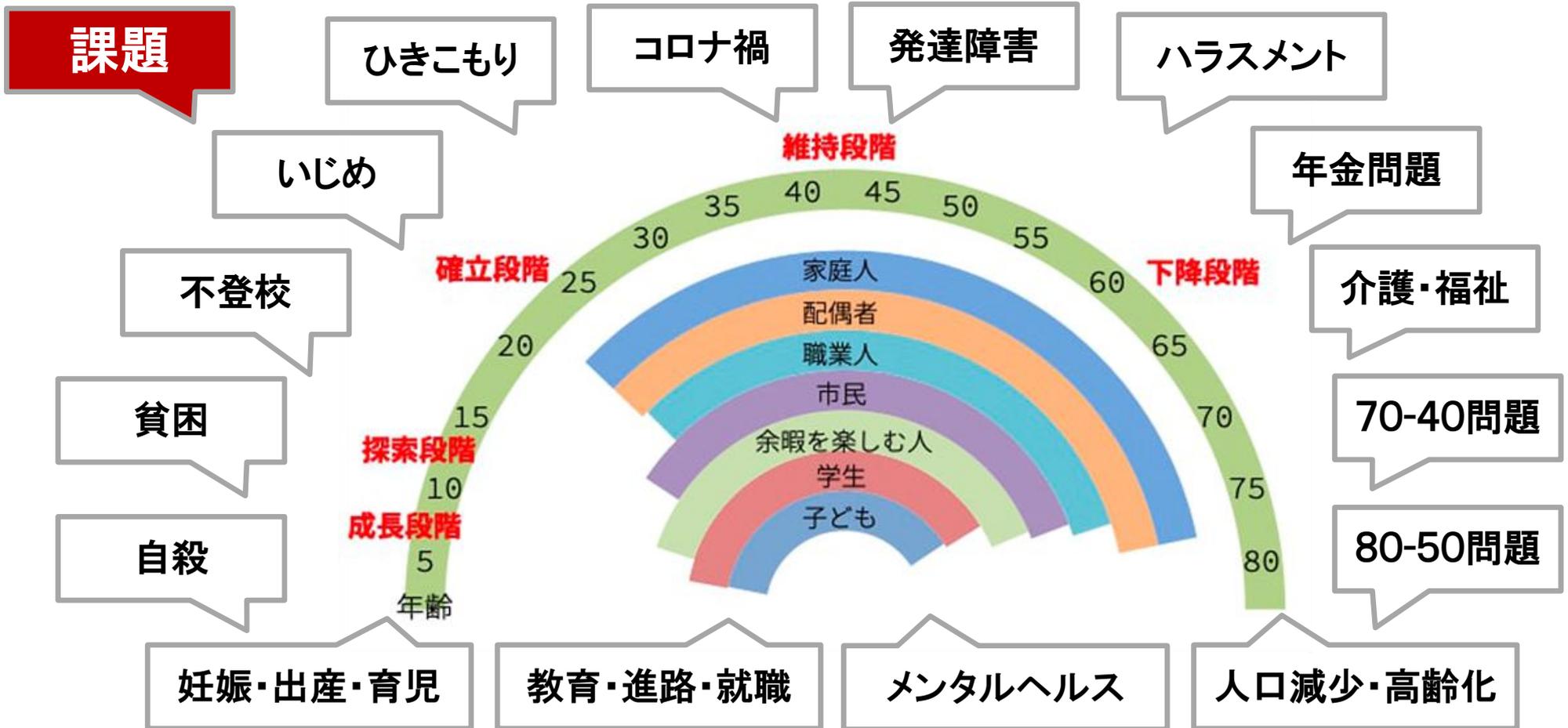
# テーマをフォーカスする

子ども・若者の就労支援(2020年3月提案)

⇒ その人らしさ！？ **ライフプラン**(キャリアプラン)を考える

⇒ **課題**: コロナ禍、いじめ・不登校、ひきこもり、貧困、発達障害etc

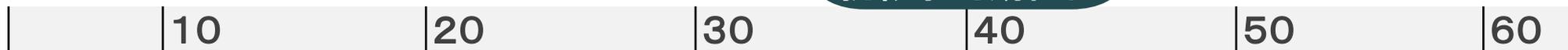
⇒ **具体的対策**: 東御市で安心して暮らすために“**今、何ができるか？**”



# 子どもや若者を取り巻く社会の現状

社会の現状では、子ども若者の設定年齢は引き上げられています！

## 就職氷河期世代



### 不登校(2018年)

- 全国
  - 小学校 40,000人
  - 中学校 120,000人
- 長野県
  - 小学校 1,032人  
(東御市 12人)
  - 中学校 2,197人  
(東御市 41人)
  - 高等学校 660人

### 高等学校中途退学(2019年)

- 全国 72,800人
  - 国公立 50,500人
  - 私立 22,200人
- 長野県 616人

### 大学中途退学(2021年)

- 文科省調査 57,913人
  - 国公立 50,500人
  - 私立 22,200人

専門学校中途退学(2014年)  
18,011人/在籍562,856人  
※法政大学研究者調べ

### ニート 87万人 (2020年)

15~34歳の非労働人口(仕事していないまたは失業者として求職活動していない者)のうち、家事も通学もしていない者(若年無業者)

### ひきこもり (国税調査、内閣府)

15~39歳 54万1千人  
40~64歳 61万3千人 (2019年)

### SNEP (孤立無業者/無職・独身・孤立)

20~59歳 156万人(2016年)  
東京大学玄田教授が2012年提唱の概念  
家族型115万人、一人型41万人  
ニートの約3割を占めている。働く意思ナシ。

# 子どもや若者の困難な状況

## 長野県の「ひきこもり等に関する調査」(2290人) 2019年2月~4月

県内2000人余ひきこもり状態 | 長野県のニュース | 1/2 ページ

ニュース速報 「核兵器を製造も保有も使用もしない」 イラン・ハメネイ師が発言

NHK NEWS WEB

信州 NEWS WEB

### 県内2000人余ひきこもり状態

06月13日 07時01分



長野県が、県内でひきこもり状態にある人がどのくらいいるのか、初めての実態調査を行った結果、少なくとも2000人余りいることが関係者への取材でわかりました。最も多いのが40代で、長期間に及ぶ人も多いことがわかり、県は、個別の事情に合わせた支援を

充実させていくことにしています。

長野県は、ことし2月から4月にかけて、県内におよそ5000人いる民生委員に、それぞれの担当地域にひきこもり状態の人が何人いるのか聞く形で、初めての実態調査を行いました。その結果、おおむね15歳から65歳未満で社会参加を避け、原則半年以上にわたって家にとどまることが続いているひきこもり状態の人は、県全体で、少なくとも2000人余りいることが関係者への取材でわかりました。年齢別にみますと、40代が最も多く、全体のおよそ3割を占め、期間では、「10年以上」がおよそ4割で最も多かったということです。中には、同居する高齢の親の健康状態に問題がある人や、親に対して暴力をふるっているとみられる人など、迅速な支援が必要なケースもあったということです。県は、民生委員が把握できた人数に限られるものの、どの地域にどんな状況の人がいるのかが明らかになったとして、今後、個別の事情に合わせた支援を充実させていくことにしています。県は、詳しい調査結果を近く公表する予定です。

シェアする ?

<https://www.3.nhk.or.jp/news/nagano/20190613/1010008988.html>

2019/06/13

### 公表された調査結果

グラフ2

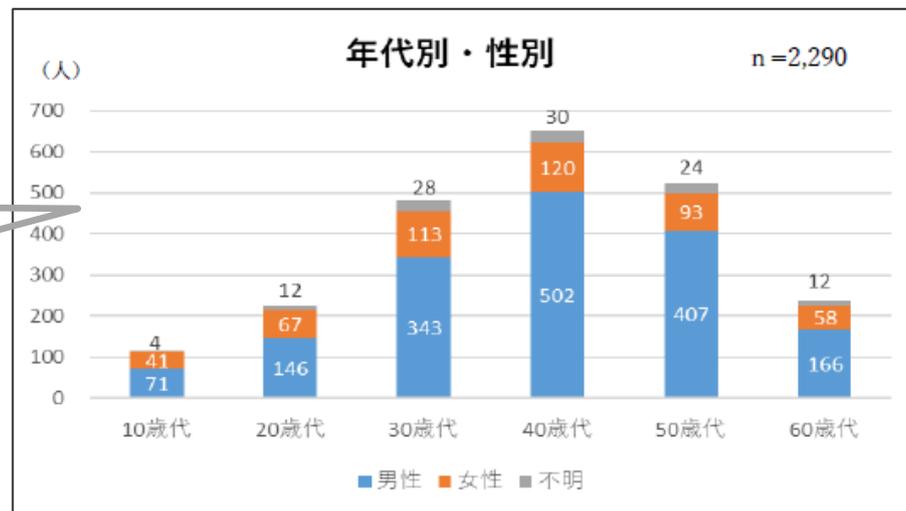


表3

(単位：人)

年代	男性	女性	不明	合計	年代別割合	「若年層」 「中高年層」	割合
10歳代	71	41	4	116	5.1%	825	36.9%
20歳代	146	67	12	225	9.8%		
30歳代	343	113	28	484	21.1%	1,412	63.1%
40歳代	502	120	30	652	28.5%		
50歳代	407	93	24	524	22.9%		
60歳代	166	58	12	236	10.3%		
小計	1,635	492	12	2,237			
不明	35	7		53			
合計	1,670	499	121	2,290		2,237	

# 地域社会の自立支援への取り組み

## 長野県子ども・若者支援総合計画(2018年～2022年)

### 長野県子ども・若者支援総合計画

～子ども・若者の未来の応援～  
(概要版)

2018年度(平成30年度)～2022年度



長野県

### ◆ニート・ひきこもりの支援

<現状と課題>

- 若者のニートは5年で約3割増えています。また、ひきこもりの若者は減少しているものの、依然として存在しています。
- 将来的なニート・ひきこもりを防ぐため、幼児期や学齢期からの自己形成支援の充実とともに、若者の就職促進や離職防止を図るため、職業観形成支援等の充実が必要です。

#### 主な取組

- 独自のノウハウを有する民間支援団体と行政の専門機関との積極的な連携による官民協働の取組を推進します。
- 幼児期からの多様な体験活動等を通して、自尊感情や自己肯定感を育みながら自己が確立できる環境を整えます。また、若者の就職促進や離職防止を図るため、キャリア教育・職場体験等の内容充実、職業観の醸成、自己理解やコミュニケーション能力の向上を図ります。

### ◆若者の就労支援

<現状と課題>

- 新規学卒就職者の約3人に1人が3年以内に離職しています。就労の前段階で、職業観の醸成を促進する必要があります。
- 正社員と非正社員の給与格差が存在します。
- 雇用情勢の改善に伴い、県外大学等への進学者のUターン就職率、県内大学卒業生の県内就職率ともに減少傾向にあります。

#### 主な取組

- キャリア教育、職場体験・就業体験活動を充実するとともに、学生のインターンシップの実施を促進します。
- 若者の正規雇用を促進するため、ジョブカフェ信州等において正規雇用に向けた就業相談、職業紹介等を行います。
- 県外学生に対するインターンシップ経費の助成や就職支援ポータルサイトによる情報発信等により、県内企業の魅力や信州で働く魅力の理解促進を図り、県内企業での就職を促進します。

ニートの数(長野県) 単位:人

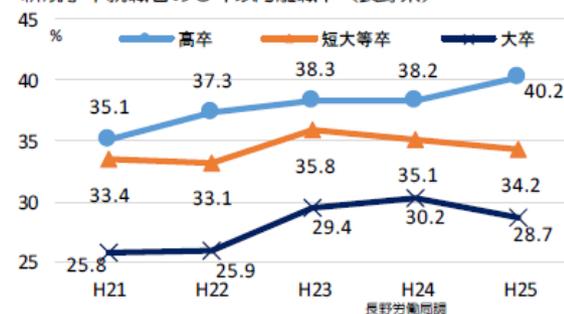
	H22	H27	備考
ニート(15~34歳)	4,859	6,374	国勢調査

ひきこもりの数(長野県) 単位:人

	H21	H27	備考
ひきこもり	10,700	7,900	若者の生活に関する調査(内閣府)、若者の意識に関する調査(内閣府)から推計

指標名	現状	目標
困難を有する子ども・若者支援のための地域協議会における要支援者の支援完了及び継続者の割合	81% (2016年度)	現状以上 (2022年度)

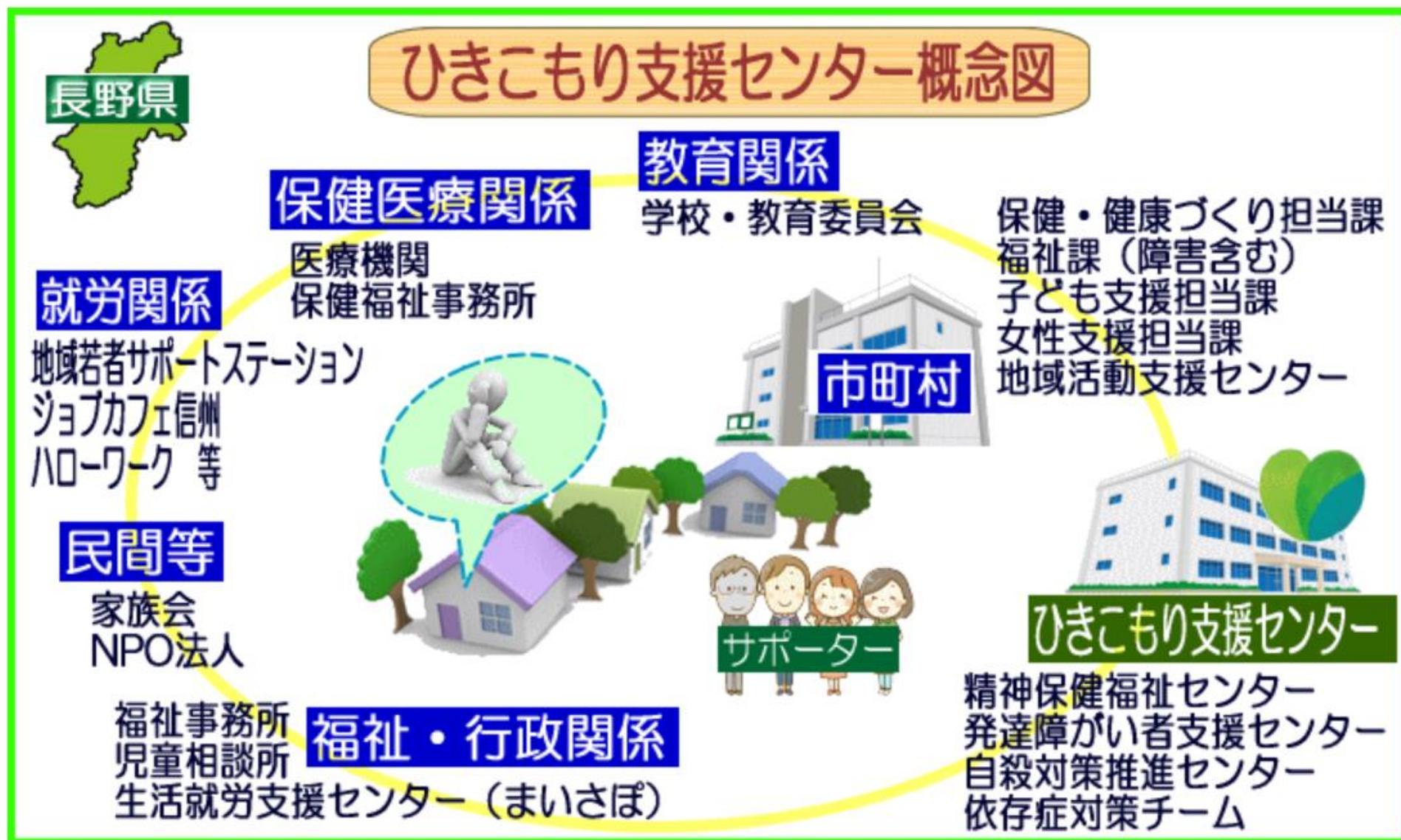
新規学卒就職者の3年以内離職率(長野県)



指標名	現状	目標
県内出身学生のUターン就職率	37.7% (2017年度)	45.0% (2022年度)

# 地域社会の自立支援への取り組み

長野県では、平成22年4月に精神保健福祉センター内に「長野県ひきこもり支援センター」を開設しました。



# 「引きこもり」県内把握難しく

## 市町村3割「全くできていない」「わずか」

引きこもり状態の人のうち、支援が必要な人の把握	市町村
引きこもり状態の人はいない	3
ほぼ(7~10割)できている	11
多少(3~6割)できている	28
わずかに(1~2割)できている	20

県内の引きこもり状態の人のうち、何らかの支援が必要な人の把握が「全くできていない」「わずかにできている」とする県内市町村は計23あり、全77市町村の約3割に及ぶことが24日、県への取材で分かった。行政が引きこもり当事者の実態を把握する難しさが改めて浮き彫りになった。県は民間団体や行政などが課題を共有する検討会の初会合を25日に開き、具体的な支援の検討に乗り出す。

県が昨年8月に実施した調査で、支援が必要な引きこもり当事者の把握が「ほぼできている」とした市町村は11にとどまった。「多少できている」が28、「支援が必要な人の見守り、生活困窮や就労のはいない」が4、「引きこもり状態の人はいない」が3などだった。市町村からは「関係機関などから散発的に情報提供はあるが、本人や家族に拒否されるなどして継続的な把握は難しい」という声も聞かれた。

引きこもり支援は現状で、保健師らの訪問や民生委員らからの見守り、生活困窮や就労の相談に対応する県内19市の生活就労支援センター「まど」など関係機関への連携が主体。調査では今後必要な支援策として、専門人材の確保・養成や市町村の相談窓口開設などが挙げられた。

### 支援へきょう検討会初会合

窓口開設などが挙げられた。県は、当事者と社会とがつながる「居場所」の状況も調査。2020年度末時点で設置している市町村は17、21年度中に設置予定が6、22年度設置予定が2だった一方、23年度以降に設置予定が「予定なし」は52に上った。未設置の理由としては人材やノウハウ、財源の不足が挙げられた。

当事者や家族を支える住民を認定する「ひきこもりサポート」は、養成研修を実施した市町村が2にとどまり、取り組みが進んでいない状況も判明。人材育成のための研究も実施は7にとどまった。県が25日に開く検討会の初会合は、こうした引きこもり支援の現状と課題について意見交換。県は本年度内に支援の在り方をまとめる方針で、一現状認識を共有し、支援の底上げを図りたい。(地域福祉課)としている。

県と市町村共同の19年2、4月の調査で、県内の引きこもりの人は2290人。40歳以上の中高年層が63.1%を占める他、引きこもりの期間は「10年以上」が40.1%に上り、高齢化、長期化が問題になっている。

## 長野県における「ひきこもり支援」について

健康福祉部 地域福祉課

**現状**

【県内のひきこもり者数 R1.6月、民生委員アンケート調査】  
2,290人 うち迅速な支援必要と推測147人 → 市町村にフォロー依頼

▶ **相談体制** 47市町村が相談窓口を設置  
県ひきこもり支援センターが全県カバー R1新規相談201人

▶ **まいさば伴走コーディネーター** (4人) 地域連携、訪問支援

▶ **子ども・若者サポートネット** (対象15~39歳)  
・相談支援 R1: 316人、うち113人支援終了  
・居場所支援 (長野、上田、伊那、塩尻) R1利用者112人

▶ **不登校等の対策** スクールカウンセラー105人 (中学校単位)  
スクールソーシャルワーカー35人 (教育事務所単位)

**目標・施策の方向**

- ◎ **身近な地域で相談支援が行われる体制づくり**  
・全市町村がひきこもり相談窓口設置 (R3)  
・途切れない支援のネットワーク
- ◎ **地域のなかに安心できる居場所や機会がある**

↓

**地域共生社会の推進**

誰もが地域の一員として安心して生活できる社会

**課題**

根本的問題 : 「ひきこもり」は状態像であり、対応する制度がないなかで、課題を抱える当事者・家族をどう支えていくか

長期化の要因 : 2つの見えづらさ... ①相談先が見えづらい ②家族自体が孤立して社会から見えづらい

【当事者・家族】 ・身近に相談窓口がない ・世間の目が気になり相談しにくい、知られたくない

【支援者】 ・支援事例少なく、どうやって、どこまで関わればよいかわからない ・制度の狭間のため、専門に関わる余裕がない  
・ニーズが多岐にわたり対応できていない (家族関係、疾病、障がい、家庭内暴力、就労、人づきあい等)

【社会の意識】 ・ひきこもりは個人の問題、周りが関わる必要ない ・仕事をしない、人と付き合えない人間はおかしい  
・社会につながるよう、支援しなくてははいけない

**課題への対応・取組**

- 1 全市町村が相談窓口を設置し、地域の相談支援の中核機関として機能
- 2 県全体で支援の全体像と方向性を共有

① 長野県ひきこもり支援連絡協議会 (仮称) ... 各分野専門家、地域支援機関等による協議、地域にフィードバック、社会へ発信

- 3 当事者・家族が抱える様々な課題に対応する支援ネットワークの構築  
まいさば伴走コーディネーターによるネットワークづくりの推進、モデル的な取組の実施

ひきこもり支援の全体像

まずはこの基盤づくり

- ① 家族へのアプローチ (家族だけで抱え込まない(適切な対応方法を知る))
- ② 本人への個別アプローチ (家族以外の人(相談員など)との関係構築)
- ③ (中間的な) 集団の場への参加 (家庭外で安心の場を得る、社会経験を積む)
- ④ 段階的な社会参加 (その人に合った社会参加を目指す)

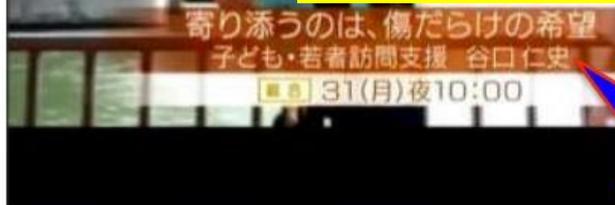
県内

# 地域共生社会を目指している先進例

 全国トップレベルの実績を有するS.S.F.のアウトリーチノウハウを基軸とした革新的取組  
～先進モデルとして全国から注目を浴びる「佐賀県」「佐賀市」がリードする自治体とS.S.F.との協働による自立支援～

認定NPO法人 スチューデント・サポート・フェイス(S. S. F)  
代表理事 谷口仁史さん

佐賀県子ども・若者総合相談センター長  
さが若者サポートステーション 前総括コーディネーター  
佐賀県ひきこもり地域支援センター長



NHKプロフェッショナル仕事の流儀  
の反響は大きく放映後、全国各地から相談が殺到！前年度実績から1万件以上の高い伸び！

課題解決ドキュメント ふるさとグングン！  
ひきこもりの若者を救いたい～長崎・五島市福江島～  
NHKG 2017年11月19日(日)午前10時15分～10時58分



新聞各紙は勿論のことNHK全国放送でもほぼ毎年取り上げられているS.S.F.の相談活動

# 地域共生社会を目指している先進例

## 佐賀県ひきこもり地域支援センター「さがすみらい」H29年度～R2年度事業実施状況

～S.S.F.が持つアウトリーチに対するニーズの高さを背景に全国トップクラスの相談実績を収めている～

### 佐賀県ひきこもり地域支援センター「さがすみらい」の相談実績

# 相談件数19,159件

(うち訪問件数6,479件)

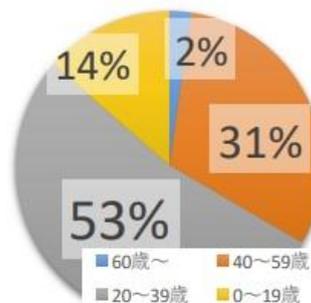
H29年5月15日～R3年3月31日

R2年度、相談件数が過去最高を更新する一方で、新規登録者が減少した背景には、新型コロナウイルスの影響大！10代、20代が前年同水準であったものの、30代が約47%減、40代が42%減、50代が39%減と親世代が高齢化している家庭ほど相談から遠のく傾向が顕著となった！

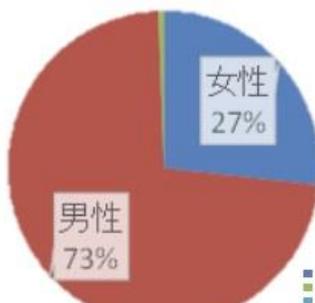
厚生労働省選定モデル自治体との比較(開設初年度)			
	佐賀県	A県	B市
相談件数	3,963件	379件	997件
訪問件数	1,450件	10件	67件
実施体制	臨床心理士2名 ※上記実績は開設初年度	保健師3名、精神保健福祉相談員9名	常駐相談員2名
※相談者との多様なマッチングを可能とする「シフト枠」が奏功			
※S.S.F.本体事業及び関連事業による予算枠外の後方支援が機能			

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	合計
相談件数 (延べ件数)	3,963	3,879	4,744	6,573	19,159
新規登録者 (実数)	348	195	223	162	928
実被相談者 (直接支援を受けた相談者実数)	348	334	401	276	1,359
OR被相談者 (ORを受けた相談者実数)	182	196	290	148	816

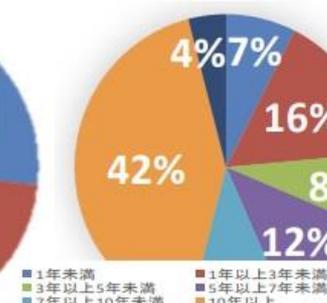
(ア)年齢層



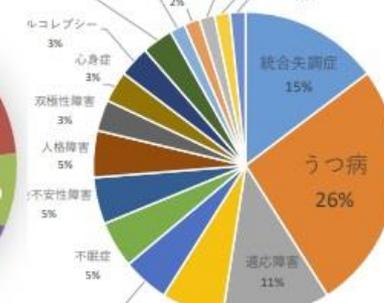
(イ)性別



(ウ)ひきこもり期間

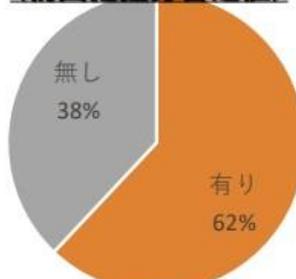


(エ)精神疾患



(オ)支援履歴

(初回把握分暫定値)



開設初年度の実態調査では、ひきこもり期間5年以上が64.4%、うち10年以上に及ぶケースが42%

過去に相談窓口や医療機関、民間支援団体等の利用経験を持っていると答えたケースが全体の62%

課題の複合化:「多職種連携」によるアウトリーチと社会参加・自立に至るまでの「伴走型」支援が不可欠

# 地域共生社会を目指している先進例

**S.S.F. 世代的条件等も加味することで相談者の心理的抵抗感を軽減**

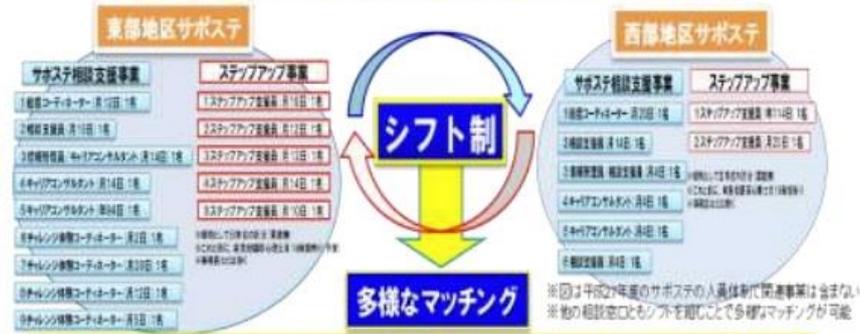
～S.S.F.の支援介入困難度による役割分担と世代的条件を加味した関係性重視のマッチング～

## ① 経験と実績を有する 複数分野の専門職によるチーム対応



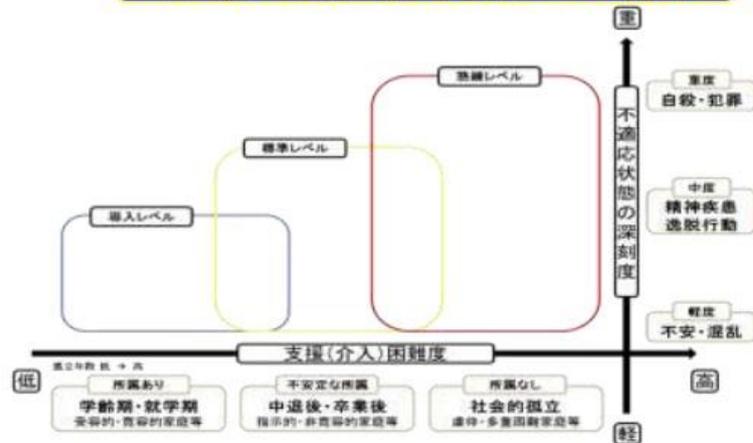
【登録スタッフの保有資格】臨床心理士、公認心理師、キャリア・コンサルタント、社会福祉士、精神保健福祉士、産業カウンセラー、学校心理士、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士、ファイナンシャル・プランニング技能士、理学療法士、サービス管理責任者、SSF支援コーディネーター、職業訓練校指導員免許、心理相談員、薬剤師、医師、看護師、LD教育士等  
【年齢】20代～70代の各世代を雇用：関係性の重視と世代間の連携 ※赤字は常勤職員の保有資格

## ② 「シフト制」の採用 による相談者との多様な組み合わせ



個別担当者制とチーム対応の併用：「より多く」の若者に「より深く」関与することが可能

## ③ 相談者の状態及び所属する 環境の状況を加味したレベル分け



## ④ 支援介入困難度に応じた役割分担と 世代的条件等も加味した関係性の重視



「価値観のチャンネルを合わせる！」徹底した危機管理の下、関係性を重視した「お兄さん」「お姉さん」的支援員(ナナメの関係性)を積極的に活用

# 地域共生社会を目指している先進例

 対人関係の改善には価値観が理解できる世代と真意を把握できる専門家の関与が必要  
～適応訓練を行うのはコミュニケーションパターンが合わせ易い「お兄さん」「お姉さん」的支援員～

専門の相談員が常駐し支援するS.S.F.のフリースペース「コネクションズ・スペース」



学習支援



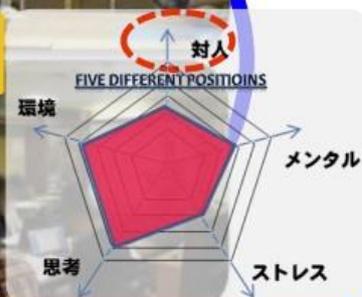
こども食堂



居場所



適応支援



心の居場所+適応訓練の場としての機能：興味関心等に応じたオーダーメイド型プログラム 48

# 地域共生社会を目指している先進例

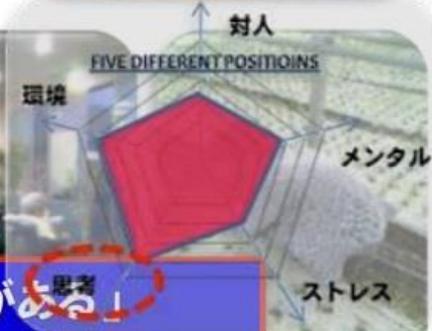


「認知行動療法」と「職親制度」を活用したジョブトレ

～ 認知的な偏りを修正するための「必要経験」にターゲットを絞りプログラム化する！～

**配慮のない体験は苦手意識やトラウマを強めるリスクが高い**  
**「最初から答えを与えても効果は薄い！」 「経験を伴いながら段階的に変化を！」**

<p>農業・畜産業・漁業</p>	<p>製造業</p>	<p>販売・配達</p>	<p>映像・造園・その他</p>
<p>宿泊・観光業</p>	<p>S.S.F.と共に若者達を支える 佐賀県の理解ある事業主「職親」</p>		<p>飲食業</p>
<p>教育・専門学校</p>	<p>H18年の運用開始以来 190カ所を超える多職種の仕事所等が協力 <small>※国は主な受け入れ先を併示、一部イメージ写真有</small></p>		<p>医療</p>
<p>伝統工芸</p>	<p>卸売・小売業</p>	<p>社会貢献</p>	<p>介護・福祉</p>
<p>建築・建設業</p>	<p>サービス業</p>		



**職業に対する偏見や不合理な職業観の修正⇒「すべての仕事に価値がある」**  
**労働人口の約49%がAI等に代替される時代⇒「仕事に価値を見出す力が重要」**

# 地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、**住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会**

## 支え・支えられる関係の循環

～誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成～

- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包摂する地域文化



- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防
- ◇ワークライフバランス

すべての人の生活の基盤としての地域

- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、雇用創出等による経済価値の創出

## 地域における人と資源の循環

～地域社会の持続的発展の実現～

- ◇就労や社会参加の場や機会の提供
- ◇多様な主体による、暮らしへの支援への参画

すべての社会・経済活動の基盤としての地域



農林



環境



産業



交通



# 重層的支援体制整備支援事業（社会福祉法第106条の4）概要

- 地域住民が抱える課題が複雑化・複合化（※）する中、従来の支援体制では課題がある。（※）一つの世帯に複数の課題が存在している状態（8050世帯や、介護と育児のダブルケアなど）、世帯全体が孤立している状態（ごみ屋敷など）
  - ▼属性別の支援体制では、複合課題や狭間のニーズへの対応が困難。
  - ▼属性を超えた相談窓口の設置等の動きがあるが、各制度の国庫補助金等の目的外流用を避けるための経費按分に係る事務負担が大きい。
- このため、属性を問わない包括的な支援体制の構築を、市町村が、創意工夫をもって円滑に実施できる仕組みとすることが必要。

## 社会福祉法に基づく新たな事業（「重層的支援体制整備事業」社会福祉法第106条の4）の創設

- 市町村において、既存の相談支援等の取組を活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、**I 相談支援、II 参加支援、III 地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業を創設**する。
- 新たな事業は実施を希望する市町村の手あげに基づく**任意事業**。ただし、事業実施の際には、I～IIIの支援は必須
- 新たな事業を実施する市町村に対して、相談・地域づくり関連事業に係る補助等について一体的に執行できるよう、**交付金を交付**する。

**令和3年4月1日施行**

### 新たな事業の全体像

#### I 相談支援

##### 包括的な 相談支援の体制

- ・属性や世代を問わない相談の受け止め
- ・多機関の協働をコーディネート
- ・アウトリーチも実施

I～IIIを通じ、  
・継続的な伴走支援  
・多機関協働による  
支援を実施

#### III 地域づくりに向けた支援

##### 住民同士の顔の見える関係性の育成支援

- ・世代や属性を超えて交流できる場や居場所の確保
- ・多分野のプラットフォーム形成など、交流・参加・学びの機会のコーディネート

#### II 参加支援

- ・既存の取組で対応できる場合は、既存の取組を活用
- ・既存の取組では対応できない狭間のニーズにも対応（既存の地域資源の活用方法の拡充）

（狭間のニーズへの対応の具体例）

就労支援

見守り等居住支援

生活困窮者の就労体験に、経済的な困窮状態にないひきこもり状態の者を受け入れる 等

⇒新たな参加の場が生まれ、地域の活動が活性化

### 相談支援・地域づくり事業の一体的実施

- 各支援機関・拠点が、属性を超えた支援を円滑に行うことを可能とするため、国の財政支援に関し、**高齢、障害、子ども、生活困窮の各制度の関連事業について、一体的な執行**を行う。

#### 現行の仕組み

高齢分野の  
相談・地域づくり

障害分野の  
相談・地域づくり

子ども分野の  
相談・地域づくり

生活困窮分野の  
相談・地域づくり

#### 重層的支援体制

属性・世代を  
問わない  
相談・地域づくり  
の実施体制

# 重層的支援体制整備事業について(イメージ)

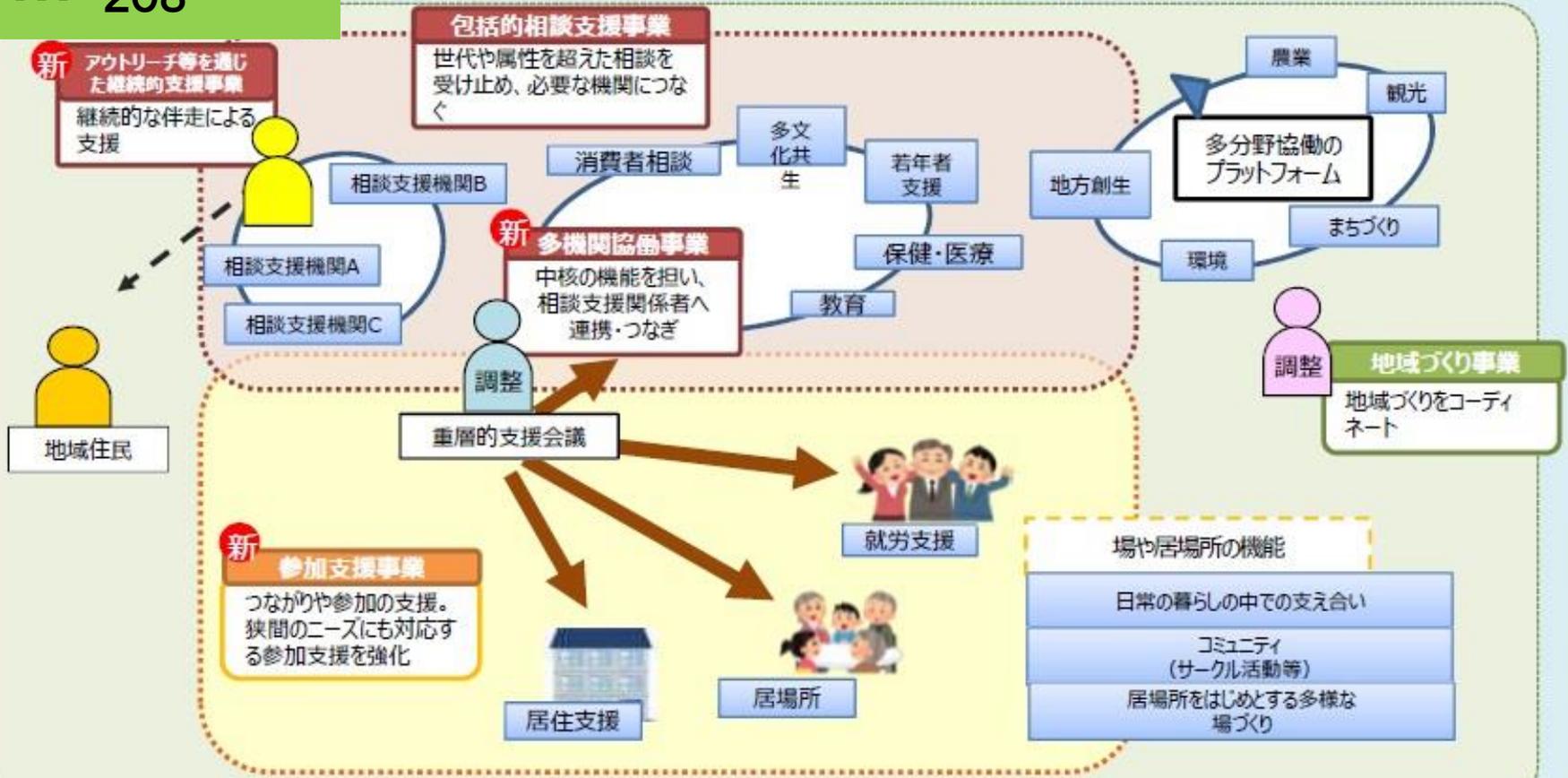
- 相談者の属性、世代、相談内容に関わらず、**包括的相談支援事業**において包括的に相談を受け止める。受け止めた相談のうち、複雑化・複合化した事例については**多機関協働事業**につなぎ、課題の解きほぐしや関係機関間の役割分担を図り、各支援機関が円滑な連携のもとで支援できるようにする。
- なお、長期にわたりひきこもりの状態にある人など、自ら支援につながる事が難しい人の場合には、**アウトリーチ等**を通じた**継続的支援事業**により本

## モデル事業実施自治体

H28年 ... 26  
 H29年 ... 85  
 H30年 ... 151  
 R1年 ... 208

薄化しており、参加に向けた支援が必要な人には**参加支援事業**を利用し、本人のニーズと地域資源の間を調整する。住民同士のケア・支え合う関係性を育むほか、他事業と相まって地域における社会的孤立の発生・深刻化の防止をめがら、市町村全体の体制として本人に寄り添い、伴走する支援体制を構築していく。

### 重層的支援体制整備事業 (全体)



# 誰ひとり取り残さない街づくり

ひきこもり支援⇒相談者に寄り添った「居場所づくり」が第一歩！

## 1. 常設の居場所

多世代が集まれる、いつでも行ける、いてもいい居場所づくり

## 2. スタッフの育成

相談相手に信頼される人財育成やネットワーク作りのハブ機能

## 3. 情報提供

相談者に必要&知りたい情報（生活・医療・福祉・就労・年金etc）がある

## 4. 研修会や講演会

支援者、家族、市民のスキルアップ（話相手を増やす）

## 5. ワンストップ相談の拠り所

手帳があっても無くても利用できて、  
当事者支援&家族支援の対応として、たらい回しにしないこと！

東御(とうみ)モデルのセイフティーネットを創ろう



# 東御の将来について考察

「てんでバラバラ」をどう伸ばしていくか？  
市外での活動・視点を通して見えてきたこと。

# ○自己紹介

- ・ 大谷 真宙 (オオタニ マチュウ)
- ・ 海善寺北出身、  
現在東京都大田区在住
- ・ 歴史好き  
(主に戦国時代、世界史)  
尊敬している武将は真田信幸
- ・ キャンプや低山登山などアウトドアスポーツ、  
戦略性のあるゲーム (チェスやPCゲームなど)
- ・ 会社勤めをしつつ、個人事業主として  
東御市を中心に信州をPRする  
和屋-Canaux-を展開。



# ○和屋-Canaux-とは

## 【目的】

東御市を中心とした信州の産品を市外の方に紹介し、産品を飲食、使用あるいは鑑賞することで受ける感動を通して、東御市を身近に感じていただくこと。

## 【主な企画】

直売イベント：「ミニミニとうみフェア」など

交流イベント：「とうみ飲み」

サポート：JA信州うえだ様の販路開拓、情報収集  
イベントお手伝い

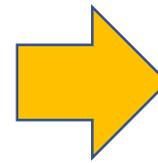
他に大田区で東御と連携したい方とのコラボや東京都内の地方イベントや地方の魅力発信のグループに  
例：大田区福祉施設のグループ「おおむすび」様  
「地域バイヤー」グループへの参加など



# ○和屋-Canaux-の 活動を通して感じもの



- 買われる方は県内や東御に来られた方が多い。  
「子供が林間学校で（休養村とうぶ）にいった」という声が多かった。
- くるみやぶどうがおいしかった、  
野菜がおいしかったなどのお声を良くいただく。  
お客様から電話で問い合わせが来ることも。
- 交流会「とうみ飲み」はオンラインでの  
東御在住者と市外の方の交流イベントに。  
（内容は必ずしもPRや移住ではなく、世間話など）
- コラボレーションした「東大みかん愛好会」さんは  
合宿で行きたいと言ってくれたことも。



市内や都内の方の協力をいただきながら販売・イベントを通して大田区の既存のとうみファンの維持と少しずつ新規のファンを獲得。



# ○活動を通して見えた外からの東御市

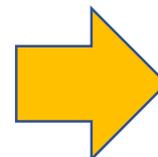
すでにある程度の地方創生は実現しており、むしろ、平均より何周か先を走っている。さらにまちの個性が強い。

理由

1. 信濃くるみ、巨峰をはじめとする 農産・畜産・酪農の「複数」の特産が豊富。
  2. 株式会社ミマキエンジニアリング、コトヒラ工業株式会社（ユニットバスなど）工業も盛ん。
  3. 雷電為右衛門（相撲）、土屋圭一氏（レーシング）、熊谷正寿氏（GMOグループ代表）、宮入法廣氏（刀匠）、平田はるか氏（わざわざ代表）など著名な人物が「複数」輩出。
  4. 海野宿の街並み、湯楽里館、芸術村、御牧の湯、湯の丸高原など、活用されている観光資源・自然資源も豊富。
  5. 巨峰まつり・火のアートフェスティバル・祢津の歌舞伎など、市内外に知られているイベントが「複数」ある。
- + 高地トレーニング場（GMOアスリートパーク湯の丸）  
→結果、農業・工業ともに人口3万人の自治体としては盛んであり、観光面でも魅力はある。

地方創生の分野で、

他の自治体のお手本・モデル・なりたい姿に東御市自身がなっている。



補足

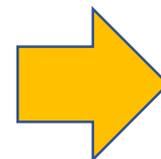
ここまでの東部町・北御牧村での政策の成果、80年代～90年代で起業されてた方の成功が実感できるようになってきている。

## ○東御市に死角はないか？

○最大の問題：今後の街づくりのお手本のモデルが見つからない！

地域づくりの目標・ロールモデルとしての立ち位置（=トップランナー）のため、東御市自身の目標・今後の方針が打ち出しにくい。

かつ、後続自治体の目標の「地方創生」の声が大きく、後ろに引っ張られやすい状況。



**その中で、東御市としての今後の将来像をどう描くか。**

さらには昨今の新型コロナウイルスなどの影響で社会の動向が著しく変化し続け、中長期的な予測が立てにくい。

## ○将来像を考察する前に、まず東御市の特長を振り返ると

東御市の特長を話すと日が暮れるのが東御市の特長。  
多すぎてどれを話していいかわからないところがある  
東御といたらこれ！というところ、、、、

「東御は晴れの日が多く、風景がきれい、クルミは味も生産量も日本一で、ぶどうも名産、ワイナリーも多く、評判のビールも醸造、お米や野菜も美味しく、黒毛和牛や養鶏なども盛んで、有名なチーズ工房もあり、美味しいお菓子屋さんに街で評判の肉屋さんやスーパーさんもあって温泉も多くある、さらにはスキー場はパウダースノーで、（以下割愛）」  
（よくありがちな有名人物・映画作品の舞台でPRしなくても十分な魅力を有する。）

⇒なぜ、こんなに特長が豊富なのか？

## ○「豊富な特長」の要素

a. 人・モノの出入りに大昔から慣れている。

古い時代（縄文時代？）から和田峠の黒曜石、平安時代の牧場、江戸時代の北国街道。  
明治時代の万座・草津・鹿沢の温泉地の玄関口、生糸の輸送拠点。

b. 時代の都で活躍したり、中心地の情報・知識・デザインを持ってくる人物が存在。

雷電為右衛門・祢津の歩き巫女・丸山晚霞・水上勉・玉村豊男氏

c. 自分はこのと決めたら、実行していく人が多い。そして、なぜか集まる。

「起業家精神・経営者」気質の方。

学習・教育の関心が高く、実行もする傾向。（積極的なコタツ文化。）

d. バッファがあり、未開拓さがある。

土地・街の規模に余裕があり、全国に知られていないからこそその魅力。

自然風景や自治体環境に啓発され、開拓精神・・起業精神が触発？

# ○「豊富な特長」の要素の効果

## a.人の出入りの慣れ

昭和・平成の住宅・工業団地の開発・チーズ工房・ワイナリーの出現

→30年～40年前に移住者が多く定住、産業振興が起きている。

花岡市長が山口県出身ということからも、人の行き交いに慣れた土地柄が定着しているのが窺える。

## b.情報と知識、デザインの流入

養蚕、信濃くるみの改良、ぶどう栽培の方法・公共浴場・団地開発・中央公園、福祉の森の開発などの成功

→地方創生はある程度進んでいる。

生産作物をガラッと変える「臨機応変」なところがある。

## c及びd. 起業家精神・経営者精神・教育への関心や環境・雰囲気の影響

果樹農家・ワイナリー・酪農畜産をはじめ農業から食品加工・製造業で活躍中。

→いい意味で『**てんでばらばら**』で創業者が活躍し、不作為的に東御市の魅力に深みを与えている。

⇒今後もa,b,c,dの要素を持ち続けるかがポイント。

# ○どう要素を持ち続けるか？

## a. 人・モノの出入りを続けること

- ・市内と市外で東御市の市民と市外の方が交流できる接点を作り、増やしていくこと。
- ・東御に来たくなる導線を増やす。近隣自治体の観光資源との連携。  
(立科町や孺恋村、例ぐんま県境トレイルなど)

## b. 時代の都で活躍したり、中心地の情報・知識・デザインを持ってくる人物

- ・土壌環境の整備：専門能力を活かせる役割や仕事の提供、マルシェやアートフェスタなど  
自分を表現できる機会の設定
- ・現在は市外に暮らす出身者との連携：在住地の情報やPRの依頼など。

## c. 自分はこれと決めたら、実行していく人が集まる。

- ・自分から動くことを後押しできる環境・土壌をさらに進める。

## d. バッファ（自然や空間）があり、未開拓さがある。

- ・バッファ管理と既存の宅地の有効活用を行い、土地や空間の「無用の用」を保つ

# ○もう少し課題を深耕

## a.人の出入りの慣れ

国内の人の出入りは慣れているが、  
海外出身者の方の出入りは慣れているか分け隔てなく接せるか  
海外とのヒト・モノ・コトの出入りは頻繁か？

## b.情報と知識、デザインの流入

日本の中心地は東京だが、世界の中心地の情報と知識・デザインの流入は？  
テレワーク・リモートワークの好機を掴めるか？  
田中駅のバリアフリーデザインは充分？

## c.起業家精神・経営者精神

流通や地域内外PRのサポート（やってみる場所・機会の提供）は充分か？  
IT産業は育っているか？

⇒市内ルーツがある方も外国にもルーツがある方も。

「ひとりひとりの自己実現」ができる良い意味での「てんでばらばな」土地としての環境をどう向上？

# ○今後活用できるあるいは活躍されそうな資源・人材（市内） （発表時割愛）

①高速バスに乗れば新宿・羽田・京都・大阪まで直通。

バス会社・路線によっては新宿・羽田を出た次の停留所が「東部湯の丸SA」。

⇒高速バスへの・高速バスからのアクセスの利便性を向上することでの人の行き交いの増加。

副次的に田中＝祢津間ののアクセスの市の背骨強化が望める。

注：高速バス乗客へのPRも必要。

②市に在住する中学生や高校生、専門学校生、大学生

学んだこと、得意なことを実践して、肌でフィードバックを感じ取る。

特に英語をはじめとした外国語は東御市としても個人としても必要になってくる。

例：海外への商品情報の発信、市内に暮らし始める外国出身者の方へのサポートなど

③障がいを抱えられている方

リモートワークで

東御にいながら東京・国外の企業でデザイン・ライター・事務などの仕事も可能に。

# ○今後活用できるあるいは活躍されそうな資源・人材（市外1） （発表時割愛）

①タテの連携により魅力の層を厚くする。

・立科町

女神湖・中山道芦田宿・立科町テレワークセンター・蓼科牛

・孺恋村

新旧鹿沢温泉、万座温泉などの温泉地、バラギ高原・

パルコール孺恋（ゴンドラと徒歩で四阿山に登山）

特に国内最長の自然歩道「ぐんま県稜線トレイル」は

谷川岳から志賀高原・四阿山を経て鳥居峠まで伸びている。

湯の丸北峰からの登山道を整備（復活）し、接続すれば、

浅間山ー谷川岳まで道一本で繋がる。

冒険心をくすぐる魅力あるルートが実現。歩道の整備・維持

で青少年の自然学習や林業環境関係の職業体験の可能性

②テレワーク（リモートワーク）・クラウドサービスの普及  
オフィスの外で休暇を楽しみ、新鮮な刺激を受け生産性向上  
する「ワーケーション」の取り組みの発生。  
ただ勇み足の所感。

→ 発展的なアンチテーゼとして

「実家ワーケーション」の提案。

親世代が元気なうちに家の様子、近所付き合いが  
でき、万が一でも、家の引き継ぎなどで子世代の負担が減らせ  
介護離職・孤立を防げないか？

かつ市外からの給料を市内に落とせる。

また、子世代の出入りで親世代の健康の刺激になり、  
健康寿命が伸びる可能性も？

## ○今後活用できるあるいは活躍されそうな資源・人材（市外2） （発表時割愛）

- ①ECサイトが輸出支援サービスを開始・展示会での東御市PR  
海外輸出への敷居が低下。より海外への発信と商取引が活発に。  
コロナ前の展示会では東御市から複数企業が展示会に出展済み。  
（ただし、バラバラな場所に展開していたので、  
出展場所をまとめる必要あり。）
  
- ②しぶとい大相撲の人気  
相撲場所を見ない人でも、ニュースや記事で目にすることが多い。  
雷電にあやかった賞を作りPRするのも手では？  
（1年間無敗全場所優勝が条件で、賞品はくるみ100キロなど）
  
- ③市外にいる東御市出身者  
副業・複業も容易になっているため、市外で得た知識・技術を  
東御市のまちづくりにフィードバックしやすくなっている。  
また、在住地域の方が最初に知る東御の人に成り得、  
東御ファンが拡大する可能性もある

# 〇まとめ

## ①人の行き交いと情報収集を自然に増やしていくこと

市外出身者のみならず国外出身者の人も住みやすくなるまちづくり。（海外への情報発信のための一手段）

市外に暮らす出身者との連携策（現地の情報収集・知見の取り込み）を強化し、観光面で魅力の積み増しを行う。

## ②市内外にある環境や資源・人材の活用

・リモートワーク・クラウドサービスなどのDXの普及、ECサイトなど拡大するデジタル技術・サービスの活用を実験。

・近隣市町村の資源と東御市の資源の連携し、観光を主にした層の積み増し。

（孺恋村や立科町などバックボーンが被り、これまで連携が薄かったところ中心に）

## ③青少年を含む若い世代・障がいを抱えた方が、自分たちがやりたいことでチャレンジ・表現・活躍できる、「0から0.1をつくり継続できる」場所・機会づくり。（特に英語発信・デザイン・起業）

## ④リモートワークの普及を好機とした「実家ワーケーション」の提言

市外に転出している出身者のまちづくり・健康づくり・地元経済への巻き込み・呼び戻し。

## ⑤東御版「私の履歴書」づくり。

今の東御市を作り上げた80年代～90年代の起業家/創業者・まちづくりの中心人物の言語録を作成、資料化。

# ○自分でできること

## ①東京都内でのPR

和屋-Canaux-の活動を継続していき、  
大田区でのファンを維持と増加を目指す。  
次の目標は羽田空港の国際ターミナルでの直販イベント。

## ②東御市と大田区の連携役

都内では地方との連携・協業を考えている方が多い。  
大田区内でも商店街、区立の福祉施設が東御市との  
コラボレーションを企画・実施。  
コロナの影響で東御市と東京の出入りが難しい状況のため、  
連絡役などになれば。

## ③東御と東京の往復での東京での仕事が両立するか実証。

(コロナひと段落後)

ご静聴ありがとうございました。

# 東御市のこれから

令和3年9月29日  
市民まちづくり会議委員 倉 嶋

## 1 湯の丸高地トレーニング施設の展望

- (1) 高地トレーニング施設の広域化
  - ・北側 群馬県嬭恋村
  - ・西側 上田市菅平高原
  - ・東側 小諸市高峰高原
  - ・マラソンは 42.195km を走る
- (2) 湯の丸高地トレーニングセンターの現状
- (3) 問題点
- (4) 日本を代表する高地トレーニングセンターへ

## 2 公共交通の充実

- (1) 公共交通について（車社会での公共交通）  
個人差がある。事故。
- (2) 利用者、高齢者（約 3,500 人）など（交通生活弱者の足） 自助・共助・公助
  - ア 高齢者に係る交通事故発生・交通安全  
65 歳以上の事故 1,930 件（令和 2 年長野県）  
高齢者の免許返納 8,441 人（令和 2 年長野県）
  - イ コミュニティバスとデマンドバスの併用  
「ライデン」がベスト
- (3) 10 年 20 年を見据えた公共交通
  - ア 市民の理解、エリア内のタクシー業者などとの共存
  - イ 利便性
  - ウ 運用（しなの鉄道、東部湯の丸インターチェンジ（高速バス）、路線バスとの連携）
  - エ 実証実験（コロナ禍で数字が低カット）
  - （オ ぶつかからない車、全自動運転車両の普及はすぐではない）
- (4) 是非ともコミュニティバスが市内各所を走る街にしたい

### 3 その他

#### (1) 市民会議での要望

ア 地元ブドウ栽培農家

季節で来ていただく人たちの宿舎

イ 東御市にある事業所（製造業であれば工場）で、その会社の本社等で働く場合のようなスキルアップできる労働環境を行政で各企業に働きかけてもらいたい

#### (2) 「ほどよく、田舎。とうみ」 TOMI CITY のロゴから

ア 横堰は市内全体では人口減少の中、増加している。移住の方々と地元の関係

（移住して来た方々の住宅の一角があり、ビバリーヒルズならぬヨコセギヒルズと呼ばれている。そんな中での公民館での区費）

イ 今は改善、市の臨時職員の採用について

ウ 「ほどよく、田舎。とうみ」にふさわしいメルヘンチックなほのぼのした街

TOMI CITY の英語圏人口 15 億人 馴染みやすいのでは

#### (3) 地元産品

・食肉類 牧舎みねむら

・乳製品（チーズなど） アトリエ・ド・フロマージュ

・地元ワイン、ビール 市内ワイナリーなど

#### (4) 荒廃農地、遊休農地が目につく

### 4 まとめ

イラストマップ

市民の一人一人が幸福感（首都圏とのアクセス、市内交通の利便性、飲食店が多いなど）を持つ  
明るい街。通過するだけの街から、独自性のある街へ。

夢物語であるかもしれませんが、提案をしました。

## 【資料1】意見集約結果

### 1. 今後の進め方について

① 1つの課題について、毎回2チーム程度に分かれて議論→発表	2
② 2つの課題について、固定の2チームで毎回議論→発表	3
③ その他の進め方	6

#### 「③その他の進め方」の意見

- ① 「発表の振り返り」30分（発表者への質疑応答も含めて）
- ② グループ検討40分（4～5人/グループ）
- ③ 発表10分 → 残り今後の方向性検討と、毎回1テーマに絞っての進める。

- ① 各委員がそれぞれ挙げた課題に取り組む
- ② 進捗があった委員は「発表時間3分上限」で進捗報告
- ③ 発表者へ質問
- ④ プロジェクトを一緒に行いたい委員で集まり→打ち合わせ→行動

テーマ決定&委員からの発表を実施したのち進めた方がいいと思う

個人提案と全体提案の二つを実施

○個人提案

各自東御市が本気でやるべき事を考え、その提案を自分で調査し自分で提案書を作る。

毎月のまちづくり会議では議論対象としない。

※発表した内容の深掘り調査して提案書でもOK

※同じ意見で有れば共同作業もOK

○全体提案

一つのお題を毎回2グループに分かれて検討する

分科会等を立ち上げてタスクフォースを組んで検討を進めていく

問題提起（済） → 検討グループの立ち上げ（分科会） → 検討 → 全員に課題の対応策を発表 → 課題対応に向けてリーダー選出 → 対応策の計画 → 対応策の実行 → 評価

PDCAを回すイメージで検討。分科会の回数などはグループで検討する。

グループをつくりディスカッション→（何をやるか発表）→チャレンジ（実行）→報告発表

### 2. 取り組みたいテーマ（課題）

カテゴリ	取り組みたいテーマ
まちづくり (市内へ向けた取組)	老人や子供たちに優しい街づくり
	住みやすさや暮らしやすさについて（商業・経済以外）
	皆が（一生）住みたいと思う町にするには
	教育関係
	EVバス（公共交通）
シティプロモーション (市外へ向けた取組)	空き家対策
	東御市の将来について
	東御市の魅力発信について
	東御市のファンダム作り
	山岳環境を利用したスポーツツーリズム
市の課題解決に向けた取組	空き家活用
	空き家問題など